

## コース26 あわがだけ しただ 栗ヶ岳 (下田コース)

リーダー C.L. M.T. SL N.M. S.E.

実施日 令和3年10月25日(月)

天候 曇り時々晴れ

グレード C上~D

参加者 13人(男性 4 女性 7)

### コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
秋葉区役所前		6:05	13名乗車
栗ヶ岳下田登山口	7:00	7:15	準備など
元堂	7:55		
4合目 栗石跡	8:14		八汐尾根
5合目 薬師奥の院	8:41	8:50	休憩
6合目 天狗の水場			急登が始まり、鎖場2ヶ所
7合目			尾根に上がり展望開け、紅葉が見頃
8合目 牛の背	10:10	10:25	痩せ尾根の通過はスムーズ
9合目	10:37		山頂を見上げながら、最後の急登を登る
栗ヶ岳山頂 1,293m	10:55	11:50	ランチ、記念撮影。紅葉は見頃。日が差さないので色は今一
5合目	13:30	13:40	鎖場の下山もスムーズ
元堂	14:38		
下田登山口	15:00	15:15	下田道の駅で買い物20分 15:45 出発
秋葉区役所前	16:38		解散

### 山行等概要(幹事のコメント)

- 天気は晴れの予報。しかし日が差すことが少なく雲の多い日でしたが、登山には快適な一日でした。
- 昨年からグレードの高い山行が少なく、参加される皆さんは登れるか?と不安を感じながらの参加だったと思います。
- 山頂は風なく、曇り空でしたが、遠くに冠雪した山が良く見えました。



栗ヶ岳山頂 1,293m

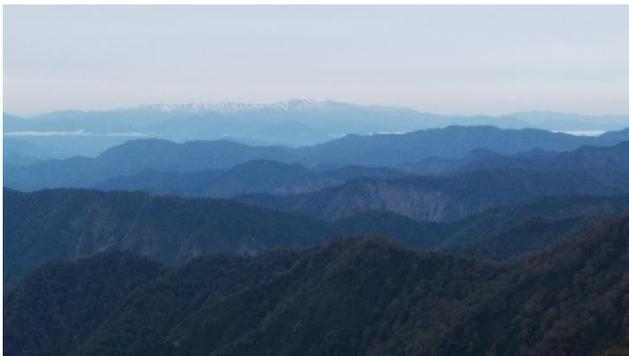
- コースタイムは休憩を含み、登り 3 時間 55 分、下りは 2 時間 50 分（休憩 1 時間 29 分）と改めて皆さんの健脚ぶりを確認できました。
- リーダーを含め皆さんが、来年度の山行への自信がついたと思います。
- 今回の参加者は体力、脚力もあり、さほど離れることもなく全員登頂することができました。（山頂の記念撮影に一人が入っていませんでした。済みません）今回の粟ヶ岳にむけてトレーニング登山や、日々の里山歩きなど皆さんの努力に「継続は力なり」を実感しました。
- 今年は制約の多い年でした。経費の関係もあり SL は設けない約束がありましたが、グレードの高い今回は SL を二人お願いし、班長さん、会計さん達のお陰で無事終えることができました。参加された皆様、ご協力ありがとうございました。



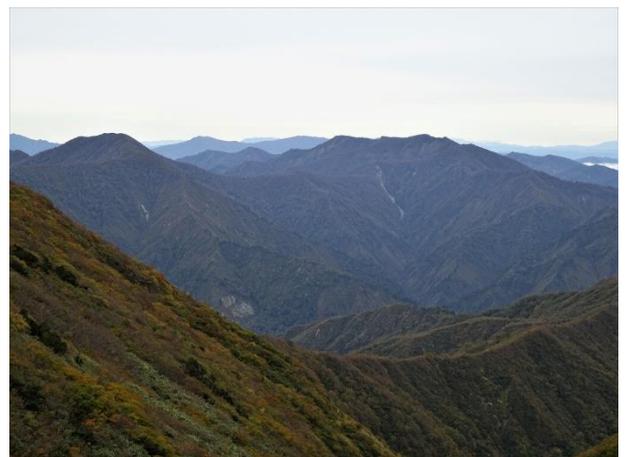
袴腰山の峰々



権ノ神岳、白山の山々



奥に冠雪の飯豊連峰



青里岳、矢筈岳の川内山塊



下りの「牛の背」で

# 「やったぜ 栗ヶ岳」

1750 K.S.

越後平野の中心部に堂々とそびえたつ「栗ヶ岳」は、我家（旧白根市）から常に眺望できる山だが中々行くことのない近くで遠い山でした。今回の山行は年齢的に不安な気持ちであったが、思い切ってチャレンジしてみようと参画した。

山行当日、早朝に集合場所の秋葉区役所から参加者 13 名全員が乗込み予定通り出発し三条市下田へと向う。車中太陽の日差しを眩しく受け今日の山行の成功と天候晴れを確信したものである。

バスは快適に走り予定より早めに登山口に到着。リーダーの出発の合図で登山口に向かう。そこにはすでに一合目の標識がありバスがそこまで上がってきたのかと思うと何か儲かった気分になった。

しばらく溪流沿いに林道を進むと徐々に道幅が狭く一人縦列となる。途中珍しい網目（ブリージング）の橋を渡り、橋でもないのに猿飛橋名の沢を鎖に伝って渡たる。いよいよ山道に最初は湿度の高そうな杉林を通過後、明るく日差しが差し込む森のブナ林に進入「大ブナの木」に遭遇ブナ林の主に進入許可の願いを込めて目礼する。ブナ林の急坂を登りながらも、時折差し込む日差しが体を癒し、まるで森林浴のようである。

五合目に到着休憩の合図。登山口を出てから約一時間半乾いた喉を潤しながら、お薬師堂に登山安全を祈願しての出発。まだまだ続く急坂にリーダーから“あわてず ゆっくりネ！”“もう少しヨ！”の激励の声が響く。登山道は落葉、粘土土、岩と変化する中に鎖場も出現するなど気が抜けない。途中で遭難者の慰霊碑に黙祷、改めて事故の無い様気を引締める。

徐々に山道の木々は低く、道幅もせまくなり尾根に出たことを感じながらアップダウンを繰り返す「牛の背」の尾根にさしかかる。古代海底から隆起したと思われる帯状の断層



猿飛沢



栗薬師手前のブナ林



2ヶ所の鎖場を登る

の岩場を慎重に足を運び無事通過。木々の間から見える風景がすばらしい。

九合目に到着。頂上はこの上と指さす先は空まで続いているような急な稜線、ここが今日一番の急坂で登りきったところが頂上とのこと。リーダーの“ガンバレ”の激が飛ぶがまだかまだかと息も絶え絶えに“もうだめだ”と思いながらも一歩いっぽ重くなった足を引き上げる。

「山頂だ！」ようやくたどり着く。心の中で“バンザイ”頂上の鐘を鳴らし、三角点にタッチだ。山頂は少し曇っており風も若干吹いていたが粟ヶ岳の風はとても気持ちよく、おにぎりが何時もより美味しく感じたのは自分だけかな。



ナナカマドの紅葉が見頃

山頂から見渡す景色は苦労して登った人へのご褒美なのか、守門岳・浅草岳・磐梯山・飯豊連峰などなど県境連峰は雪で白く輝き、眼下には越後平野、弥彦山、角田山と日本海に浮かぶ佐渡島まさに360度の大パノラマの絶景を堪能することができた。

いよいよリーダーの下山の合図で下山を開始するが、余りの下り坂にて足がひるむが木の枝や根っこを掴み何とか下る。よくもこんな坂を登ってきたなーと感動する。

道中時々山頂を振り返り、名残惜しくも“また今度ね”と心の中で手を振り下山する。下山も順調に運び、予定より早く登山口に全員無事に到着することができた。

「粟ヶ岳 最高」落葉道、粘土、岩などバラエティーに富んだ登山道。すばらしいブナ林、道中および山頂からの大パノラマの絶景。全く飽きないすばらしい山行でした。

山行行程が約8時間にもおよび長丁場の山行に色々ご苦労されましたリーダー・サブリーダー・班長に感謝申し上げます、同時に参加者全員の協力の賜と感謝申し上げます。皆さん本当にありがとうございました。

帰路のバスの中、身体をイスに沈め足を擦りながら明日の筋肉痛を心配しながらも、筋肉痛と共に粟ヶ岳山行の余韻に浸ることを楽しみにしています。



九合目の急登から見上げる山頂



九合目に向けて下山